

福祉文教常任委員会所管事務調査報告書

令和8年7月24日

別海町議会議長 西 原 浩 様

福祉文教常任委員会 外 山 浩 司

福祉文教常任委員会における所管事務調査に係る福祉文教常任委員会協議会の協議結果について、次のとおり報告します。

記

1 開催日時

(1) 第9回常任委員会

令和8年7月23日（木）10時から15時15分まで

- ・別海町し尿処理場 10時20分から11時10分まで
- ・別海町ごみ処理場 13時10分から14時05分まで
- ・根室北部広域ごみ処理施設 14時20分から15時15分まで

(2) 第9回常任委員会協議会

令和8年7月23日（木）15時35分から16時45分まで

2 開催場所

委員会室4及び現地（別海町し尿処理場、別海町ごみ処理場、根室北部広域ごみ処理施設）

3 出席委員

外山委員長、横田副委員長、中村委員、田村委員、貞宗委員、伊勢委員、吉田委員

4 欠席議員

なし

5 委員外

なし

6 調査事件及び協議結果

(1) 別海町し尿処理場（保健生活部）・・・調査終了

ア 調査結果

- ・ し尿処理場は、建設から約46年が経過しており老朽化が進んでいる。管理は渡邊清掃が行っており、別海パイロットスピリッツの選手（2名）も雇用している。
- ・ 施設の今後は、将来的な人口減少を見据え、し尿処理を下水処理場と統合する案や、最終処分場との一体化などについて、今後も建設水道部と保健生活部の間で連携しながら検討が必要であるとの意見が出された。
- ・ 施設の点検は、年に一度専門業者によって行われているが、コスト削減のため職員によっても日々行われ、施設延命化に努めている現状が見られた。
- ・ 責任者のリーダーシップが、印象深かったとの意見があった。

(2) 別海町ごみ処理場（保健生活部）・・・調査終了

ア 調査結果

- ・ 回収された「燃えないごみ袋」は、手作業で資源ごみごとに分類されている。これは、処理する機械が故障し修理には多額の費用が見込まれるため、作業員を増やし10年余り対応している状況だった。
- ・ スチール缶とアルミ缶の分別の難しさや、メーカー側での素材統一の必要性について議論された。
- ・ 10月から市街地において、不燃ごみの収集が月2回に増えることや、「雑がみ類」を袋に入れてごみ出しが可能になるなど、改善が図られた意見が出された。

(3) 根室北部広域ごみ処理施設（保健生活部）・・・調査終了

ア 調査結果

- ・ 稼働してから18年が経過し、当時作成された「ビデオ」の「21世紀にふさわしい、ごみ処理場」という説明も、時代とともに変化しているとの意見が出された。
- ・ 2階に展示されていた、燃えるゴミとして運ばれた、エンジンや海ガメの剥製など、住民のマナーを問う意見が出された。

7 その他

(1) とうべつ学園視察について

- ・ スクールバスの運行状況（最も遠い生徒の所要時間や台数）についての質問が出された。

(2) 8月の日程・内容について

- ・ 8月26日（水）

ア 別海病院

- ・ 尾岱沼・西春別診療所の現状について（報告）

イ 保健生活部

- ・ こども家庭センターの現状と課題について

ウ 教育委員会

- ・ 総合スポーツセンター施設及び社会体育施設の現状と課題について（電光掲示板について）

エ 福祉部

- ・ 介護施設の人材確保に係る現状と課題について（介護支援員や外国人支援員の状況など）
- ・ 「愛遊夢」、「すずらん」の入居状況など